

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査内容について

(1) 調査対象

[小学校第6学年児童及び中学校第3学年生徒]

(2) 調査事項

①教科に関する調査

[小学校:国語・算数][中学校:国語・数学・英語]

②質問紙調査

[学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査]

(3) 調査方法

[悉皆調査:市内すべての小中学校で実施]

(4) 調査日時

令和5年4月18日(火)

2 調査結果の概要について

◇:全国や茨城県との比較において成果のあった問題

◆:全国と茨城県との比較において課題となった問題

【小学校:国語】

領域・観点	結果の概要(◇:成果のあった問題◆:課題のあった問題)	正答率
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	(1)◇文章の種類「推薦・提案・説明・主張」とその特徴について理解している。	79.4%
(2)情報の扱い方に関する事項	◆日常よく使われる敬語を理解している。「おっしゃる・うかがう」	43.0%
(3)我が国の言語文化に関する事項	(2)◇原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 (3)出題なし	65.5%
話すこと・聞くこと	◇必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができる。	69.5%
書くこと	◆図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(60字以上100字以内)	27.2%
読むこと	◇目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる。	69.3%
	◆文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。	47.1%
今後に向けて		

すべての領域で全国平均を下回る結果となりました。本市の課題としては、「図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書くこと」が挙げられます。全国平均も26.7%と低く、難題ですが、根拠をもって書くことは例年、正答率が低くなっています。

今後は、複数の文章などから問われている情報を整理し、自分の考えをまとめて書く活動を設定する等、授業内容を工夫して学習を進めていきます。

【小学校：算数】

領域・観点	結果の概要（◇：成果のあった問題◆：課題のあった問題）	正答率
数と計算	◇一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができる。	70.7%
	◆示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できる。	46.2%
	◆ $(2\text{位数}) \div (1\text{位数})$ の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができる。	43.9%
図形	◇正方形の意味や性質について理解している。	80.7%
	◆正三角形の意味や性質について理解している。	19.4%
	◆高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。	17.2%
変化と関係	◇伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができる。	91.1%
	◇伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができる。	82.8%
	◆伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる。	44.6%
データの活用	◇「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができる。	68.4%
	◆示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違い言葉と数を用いて記述できる。	49.3%

今後に向けて

4つの領域全てにおいて全国平均及び県平均を下回る結果となりました。自分の考えを式や数、言葉も用いて記述する問題に対して、正答率は50%を下回っております。また、図形の領域について、正答率が50%を下回っております。

今後は、自分の考えについて根拠を明確にして説明できるような活動を日常的に取り入れ、

思考力・判断力・表現力を向上できるような学習を展開していきます。また、本時で学習した内容を振り返る時間や習熟を図る時間を充実させていきます。

【中学校：国語】

領域・観点	結果の概要（◇：成果のあった問題◆：課題のあった問題）	正答率
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	(1) ◇事象や行為、心情を表す語句について理解している。	90.6%
(2)情報の扱い方に関する事項	(2) ◇意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。	64.1%
(3)我が国の言語文化に関する事項	(3) ◇古典の原文と現代語の文章とを対応させて、内容を捉えることができる。	73.1%
話すこと・聞くこと	◇聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができる。	86.3%
書くこと	◆読み手の立場に立って叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる。	51.1%
読むこと	◇文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。	75.8%
	◆文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。	45.1%
今後に向けて		
<p>すべての領域で全国平均を下回る結果となりました。本市の課題としては、書くことの「読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること」と、読むことの「根拠を明確にして考えること」です。</p> <p>今後は、必要感のある条件（相手・目的・字数）を設定して自分の意見を書く等、書くことの活動の充実を図ります。また、ペアやグループで推敲する時間も大切にしていきます。</p>		

【中学校：数学】

領域・観点	結果の概要（◇：成果のあった問題◆：課題のあった問題）	正答率
数と式	◇数と整式の乗法の計算ができる。	68.4%
	◇問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。	85.5%
	◆自然数の意味を理解している。	39.2%
	◆結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができる。	33.9%
図形	◆空間における平面が同一直線上にない3点で決定されていることを理解している。	20.7%
	◆ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる。	26.6%

	<p>きる。</p> <p>◆条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができる。</p>	33.9%
関数	<p>◇事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができる。</p> <p>◆反比例の意味を理解している。</p> <p>◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。</p>	58.6% 33.7% 38.6%
データの活用	<p>◇四分位範囲の意味を理解している。</p> <p>◆累積度数の意味を理解している。</p> <p>◆複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的に</p>	59.7% 34.3% 26.7%
今後に向けて		
<p>全ての領域で全国平均を下回る結果となりました。自分の考えを式や数、言葉も用いて記述する問題に対して、5問中4問で正答率は50%を下回っております。また、図形の領域について、正答率が30%を下回っております。</p> <p>今後は、知識・技能の向上のために適用練習や振り返りの時間を充実させ、基礎・基本の定着を図っていきます。また、ペアやグループで互いの意見を交流し、自分の考えを式や図、グラフ、言葉等で表現できるような学習を展開していきます。</p>		

【中学校：英語】

領域・観点	結果の概要(◇:成果のあった問題◆:課題のあった問題)	正答率
聞くこと	<p>◇情報を正確に聞き取ることができる。</p> <p>◆日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができる。</p>	79.3% 37.0%
読むこと	<p>◇「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができる。</p> <p>◆日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができる。</p>	56.8% 29.3%
話すこと 「やり取り」	◆日付に関する基本的な表現を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けている。	15.2%
話すこと 「発表」	◆社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができる。	2.7%
書くこと	<p>◆「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができる。</p> <p>◆社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由</p>	18.0% 10.5%

を書くことができる。

今後に向けて

全ての領域で全国平均を下回る結果となりましたが、「聞くこと」の領域において、ある状況を描写する英語の内容に適した絵を選択することについては、79.3%と高い正答率となりました。一方で、全国平均も約20%で難題だったこともあります。自分の考えやその理由を書くことについて10.5%の正答率となり、「書くこと」の領域が課題として挙げられます。また、全国平均が20%未満の「話すこと」の領域においても、同様の課題として挙げられます。

今後は、自作した英文がよりよい文章になるように、ペアやグループで相互に読み合う時間を確保したり、繰り返し英文を書いたりして、表現する力を高められるよう、学習活動を進めていきます。